

《セミナー》

コケ類，昆虫香気および生物活性物質探索

科学分析支援センター 藤原 隆司

開催日時： 平成 28 年 5 月 17 日(火) 14:40～15:40
講師： 徳島文理大学 薬学部 生薬研究所 教授 浅川 義範
出席者： 13 名

科学分析支援センター主催の学術セミナーを平成 28 年 5 月 17 日(火)に科学分析支援センター3 階会議室にて行った。徳島文理大学薬学部生薬研究所教授の浅川義範先生をお迎えし，表題の演題でご講演をいただき，13 名の参加者があった。浅川先生はアジア植物化学協会会長を務められており，菌類，苔類，薬用高等植物の分子生物学研究を精力的に展開されている植物化学研究の国際的権威である。先生のご研究に対して，第一回国際蘚苔類学会賞，国際植物化学賞，国際精油賞，ジャック・キャンノン国際賞，日本生薬学会賞など多数の賞が贈られている。本セミナーでは，苔類に関する香りや味などを含む生物活性成分や昆虫類の香気物質特性について，長年にわたる浅川先生のご研究成果をもとに講演をしていただいた。

まず，蘚苔類の化学成分についての話題を取り上げられた。蘚苔類は食物としての記載はなく，個体が小さく分類や大量採取が困難であり，また人に対し重要な物質は何もないなどと教科書に記載されたため，それらの成分研究は一世紀ほど遅れてしまったという研究の背景の解説があった。しかし，浅川先生は 45 年前から蘚苔類，特に苔類化学成分の研究に着目して取り組まれた。世界各国で採集された様々な苔類から香気および呈味成分，抗菌，抗カビ，殺魚，抗肥満，筋弛緩，抗腫瘍活，抗酸化，抗マラリア活性などを有するテルペノイドや芳香族化合物の単離，構造決定，生理活性試験および化学系統分類学研究に対する詳しい解説をしていただいた。

また，先生の半世紀に及ぶコケ類独特の香り，味などを含む生物活性成分に関する研究成果や，鳥も食べない昆虫であるテントウムシに焦点を当て，昆虫の体内に含まれる化学成分，特にその香気物質の特性について詳しい解説をしていただいた。

浅川先生にはご講演を通して，研究を進める過程での研究の楽しみ方，研究に対する態度を聴講している大学生，大学院生などにわかりやすく，時には厳しく時にはユーモアを交えてお話をいただき，貴重な時間を過ごすことができた。

